

## 幼稚園教育における環境構成とモデリング

幼稚園教育を小学校教育および中学校教育と類比すると、特徴のひとつに学習者（i.e. 幼児）の自発性が考察できる。現行の幼稚園教育要領（文部科学省，2008）は、幼児の自発的な活動としての遊びが、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域でまとめられたねらいが総合的に達成されるようにすることを基本としている。学習者の自発性は、小学校教育および中学校教育においても配慮されるが、幼稚園教育においては自発的な遊びを通しての指導を中心とする点において特徴と言える。

幼児の自発的な活動としての遊びを通じた教育を展開する際、環境構成が重要となる。遊びのフィールドは、保育室、遊戯室、園庭、場合によっては廊下など広範に及ぶ。また、遊びの内容は、構成遊び、ごっこ遊び、昆虫採集など多様となる。保育者は、幼児の遊びが幼稚園教育要領のねらいを達成する活動となるよう、幼児の感情、認知、行動を考察し、計画的に環境構成を行う。

島根大学教育学部附属幼稚園が展開する「自分でみつけた遊び」は、幼児の自発性がより高い保育であり、保育者は環境構成をより重視する。「自分でみつけた遊び」は、遊びの内容、場所、遊びに必要な物等を幼児が選択し、ひとりもしくは仲間と共に自発的に展開する自発性の高い遊びである。島根大学教育学部附属幼稚園は、「自分でみつけた遊び」を通して、幼児の表現や表出を促し、活動や生活を創造する力を培うことができると考える（島根大学教育学部附属幼稚園，2012）。保育者は、保育開始前の環境構成に加えて、遊びの展開の考察に基づいて、環境構成を改善する環境の再構成を行う。

心理学には、モデリング（modeling）という、モデルの行動を観察することで行動を習得する現象を説明する概念がある（e.g. Bandura, 1971, 1977）。モデリングは、条件付け（conditioning）などの他の学習と比較して、経験や強化（reinforcement）を必要としない点に特徴がある。モデリングは、観察によって行動を習得することから、観察学習（observational learning）とも呼ばれる。幼稚園教育に限らない一般的な教育的文脈において、子どもは保育者や教師の姿を見て学ぶと言及される時、モデリング研究の知見が基盤のひとつとなっている。

「自分でみつけた遊び」を展開する保育者の姿は、モデルとして幼児の学習資源にもなる。環境構成および環境の再構成は、幼児の感情、認知、行動の考察や遊びの展開の考察を要する。考察し、工夫を凝らし、保育を展開する保育者の姿は、島根大学教育学部附属学校園の研究テーマ「学び続ける子どもの育成 — 一人一人が問いを持ち追求する姿を目指して — 」が指摘する「問いを持ち追求する姿」そのものである。島根大学教育学部附属幼稚園は、保育者がモデルとして「問いを持ち追求する姿」を体現しながら保育研究を展開していると言える。

（共同研究者：人間生活環境教育講座，淡野 将太）

### 【参考文献等】

Bandura, A. (Ed.). (1971). *Psychological Modeling: Conflicting Theories*. Aldine-Atherton.

Bandura, A. (1977). *Social Learning Theory*. Prentice-Hall.

文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領 教育出版

島根大学教育学部附属幼稚園 (2012). 教育課程 2012 未刊行